

平成29年12月22日
四国電力株式会社

伊方発電所周辺地域のお客さまへの訪問対話活動の実施結果について

今年度の訪問対話活動は、11月8日～12月2日の間、発電所から20km圏内のお客さまを対象に実施いたしました。

従来と同様、「広聴」に軸足を置き、地域の皆さまのご意見・ご要望を丁寧にお伺いするとともに、当社からは、現在実施中の「3号機の定期検査の概要」、さらには「1号機の廃止措置」、「使用済燃料の乾式貯蔵施設の安全性」について、ご説明いたしました。

概要は以下のとおりです。

1. 実施状況

- ・期 間 平成29年11月8日（水）～12月2日（土）[11月14日除く24日間]
- ・訪問戸数 27,233戸（在宅率：約49%）

（内訳）

地 域		期 間	戸 数
伊方町	旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町	11/8～11/26	4,613戸
八幡浜市	旧保内町、旧八幡浜市	11/9～12/2	15,535戸
大洲市	旧大洲市（一部）、旧長浜町（一部）	11/16～12/2	2,577戸
西予市	旧宇和町（一部）、旧三瓶町	11/21～12/2	4,508戸
戸 数 の 合 計			27,233戸

- ・当社からの訪問者数 618名（のべ1,392人・日、従業員が2人1組で訪問）

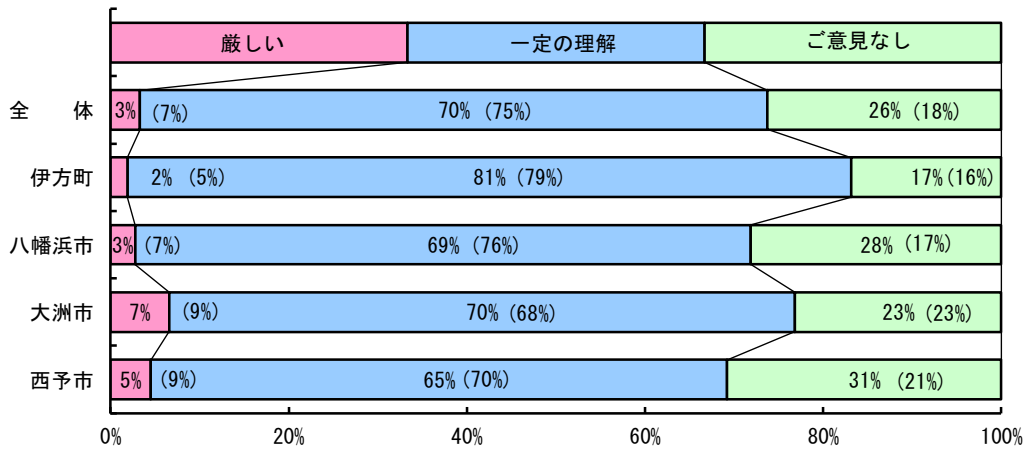
2. 実施結果

今回の訪問対話活動では、面談によるお客さまの印象として、「ご意見なし」の方が増加し、それに伴いお客さまからのご意見は総じて減少しております。（図1，2）

こうした結果は、昨年8月に伊方3号機が再稼働し、安全・安定運転を1年以上継続してきたことにより、原子力発電の安全性に関する地域の皆さまの不安感が落ち着きを取り戻しつつあることが要因ではないかと分析しております。

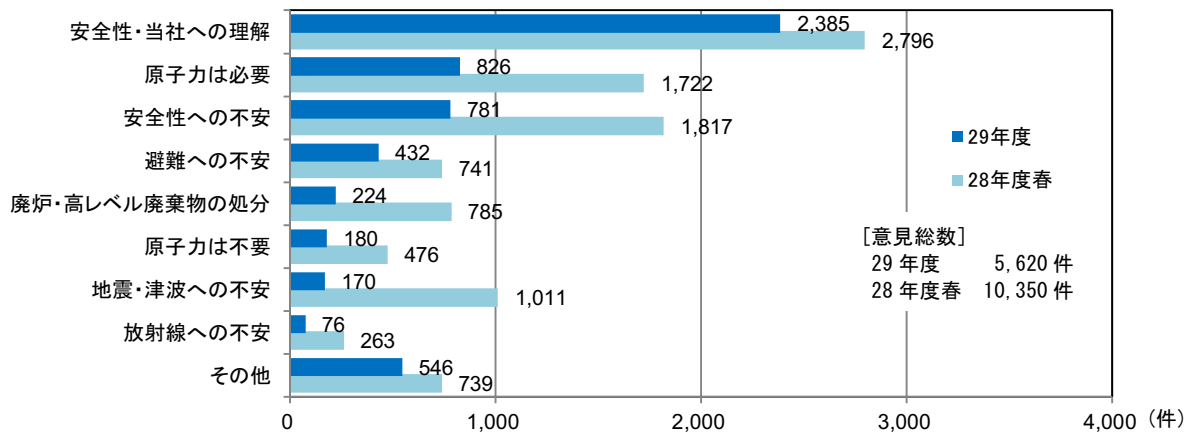
当社といたしましては、今回の対話活動で頂いたご意見やご質問の一つひとつを重く受けとめ、原子力発電に関し更なるご理解をいただけるよう、引き続き、丁寧な理解活動、対話活動に全力を尽くしてまいります。

[図1] 面談によるお客さまの印象



(注)
 ・()内は28年度春の値
 四捨五入の関係で合計が
 100とまらない場合がある
 ・28年度秋は、面談による
 お客さまの印象について
 記録していないため、
 図1,2とも28年度春との
 比較としている。

[図2] お客さまからの主なご意見



[参考] お客さまからのご意見 (抜粋)

[厳しいご意見]

- ・1号機廃炉に伴い発生する廃棄物処理が不安。
- ・乾式貯蔵は、伊方での使用済燃料の永久貯蔵につながるので反対。
- ・災害時の避難道路の整備を強く望む。
- ・高レベル放射性廃棄物の問題が片づいていないのに再稼働は反対。
- ・原子力利用反対。人間が制御できないものを扱うべきでない。
- ・北朝鮮からミサイルが来たらどうするのか。発電所がなければミサイルも来ない など

[一定の理解]

- ・廃炉は長くなるが、がんばってほしい。
- ・乾式貯蔵を安全第一に進めてください。
- ・原発は必要。福島事故が無ければ原発は輸出もできてもっと発展していたはずで残念。
- ・2号機を早く動かして、料金値下げしてほしい。原子力発電は60年程度運転すべき。
- ・原発は地元経済の発展に必要だ。 など